

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライト

食育のタネ



第1回 「食育から生きる力を養うワークショップ」開催報告！



10月20日(土)

「食育から生きる力を養うワークショップ」を開催しました！

去る2018年10月20日(土)、Jヴィレッジ・パシフィックホールにて、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターと同センター相双地域支援サテライト主催のワークショップを開催しました。

ワークショップのテーマは「食育から生きる力を養う」。東日本大震災及び原発事故後、双葉郡では著しい環境の変化等により、子どもたちの体力の低下が指摘されてきました。双葉郡の子どもたちの共通の課題である「食育」について、関係者が一堂に会し、アイデアを出し合う場が必要ではないかと考え、開催の運びとなりました。

当日は57名の方にご参加いただき「食育から生きる力を養う」ためにできることを、年齢や立場を超えて話し合うことができました。

◆開催概要

開催日時 : 2018年10月20日(土) 10:00~16:00
開催場所 : Jヴィレッジ パシフィックホール
参加人数 : 57名
主催 : 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
相双地域支援サテライト
後援 : 墨田区
協力 : すみだ食育goodネット

会場は相双地域復興の拠点 Jヴィレッジ

会場となったJヴィレッジは、東日本大震災後、福島第一原発事故収束の対応拠点となり運営が休止されていました。

しかし2018年7月に「復興の拠点」として再始動。駐車場や資材置き場となったグラウンドや、5年間の基地としての使用で傷んだ施設は元通りに復旧され、再開したスタジアムには天然芝と人工芝のグラウンド計9面と雨天練習場やフィットネスジム、新宿泊棟が増築されています。現在は2019年4月の全面営業再開を目指し、復興再整備が進められています。

会場のJヴィレッジを象徴する大広間「パシフィックホール」からは3~9番ピッチ、全天候型練習場、そして太平洋を一望することができ、参加者からも感動の声が上がりました。

今回ワークショップを「復興の拠点」であるJヴィレッジで開催できたことは食育の未来を象徴しているようです。



双葉郡の子どもたち特有の課題である

「長期の避難生活での運動不足による肥満や体力低下の傾向」をなんとかしたい！という思いが、開催のきっかけでした。

東日本大震災及び原発事故後、双葉郡における小中学校では長期にわたる避難生活のため、運動不足による体力低下や肥満、食の細さが指摘され、大きな課題となっていました。

相双地域支援サテライトでは、サイエンス教室や子どもたちの体力向上を目的としたワークショップ等を企画・実施してきましたが、食の課題解決には運動だけでなく総合的な取り組みが必要であり「食」を通じて子どもたち自身の生きる力を養うことが大切です。

そこでまず、相双地域の教育委員会や各校の協力の下、子どもたちへのアンケート調査を実施し実態把握を行いました。アンケート結果を関係者の皆さんと共有化したうえで、今後の「食育」実践のためのアイデアをご一緒に出し合い、おきなうねりに変えていきたいという思いからワークショップを企画しました。



▲サテライトでコーディネートしている心と身体を解放するワークショップの様子

第10回食育推進全国大会 in すみだ2015

夢をカタチに！未来につなぐ豊かな食育
～手回して “食で育む” 人とまち～

6月
2015
開会式

6月21日
開会式

11:00-12:00
会場：江戸川区立総合体育館

会場：江戸川区立総合体育館

会場：江戸川区立総合体育館

会場：江戸川区立総合体育館



楽しみ！
遊ぶ！
・食育講座
・食育体験のふし
（人形劇、かんづめ作り）
・ふれあいイベント
・食育相談会
・食育体験会
・食育相談会

▲「食育推進全国大会」の運営で市区町村で指名を受けたのは墨田区が全国初だそう

食育のトップランナーである「墨田区」 「すみだ食育goodネット」との出会い

伝手を頼り出会ったのは「墨田区」と区内で活動する団体「すみだ食育goodネット」でした。墨田区は区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学等と協働で食育を推進しており、様々な取組を通して「すみだらしい食育文化」を育み、2015年には内閣府の指名を受けて「第10回食育推進全国大会 in すみだ」を開催し大成功をおさめた食育のトップランナー。すみだ食育goodネットは、墨田区の協働による食育活動の核となる団体です。ワークショップへの協力をお願いしたところ「区としても福島県の被災地に貢献したく、また学ばせてもらいたい」と、区の後援とすみだ食育goodネットの全面的な協力を快諾してくれました。当日のワークショップの企画に関しても顧問の秋田 昌子さんに全面的にサポートしていただきました。

ワークショップ当日は、双葉郡からは教育委員会、自治体、保護者、生産者などさまざまな立場の方が、墨田区からは区職員やすみだ食育goodネットの皆さんが集まり、57名の方が参加されました！

当日の様子① まずはお互いを知るところからスタート！

ワークショップの冒頭は、参加者の自己紹介。「10秒メッセージ」という形式でひとりずつ自分のことを話しました。所属や居住地、年代もバラエティに富んでいて、一体どんな1日になるのだろうか？と期待が膨らみました。

自己紹介が終わると最初のグループワークがスタート。「食育ってな～に？」というテーマで、参加者それぞれが自分の思う「食育」を語り合い、グループごとに発表しました。「バランスよく食べることの大切さ」「食べることは命をいただくこと」「食べるものを自分で決定することが生きる力につながる」など、各グループから様々なキーワードが出てきて、共感したり、新しい発見があったりと、改めて参加者それぞれが、食育に対する自分の思いを確認する時間となりました。



▲10秒で「名前・所属・ひと言」を伝えます。10秒以内で自己紹介するのはなかなか大変！



▲最初のグループワーク「食育ってな～に？」発表の様子



▲ひとりひとりが自分の意見をふせんに書き出し、お互いの意見を見ながら進めました

当日の様子② 「すみだの食育」の取り組みからヒントをつかむ！

次にすみだ食育goodネットの皆さんから、食育の取り組みについて発表がありました。すみだ水族館の協力で行われた「いきものごはん」と食育をつなげた取り組みや、子どもたちが地域で食への思いや歴史、作り方を学び店の人に代わって商品を販売する「こども商店街」など、一次産業のない墨田区では区民、地域団体、NPO、事業者、企業、大学等が協働して様々な食育のプログラムを子どもたちに提供しています。講師の秋田さんからは「徹底したのは『つなげる・つながる・手間かける』。人と人、地域と地域をつなげることに手間をかけてきたからこそ、広がりのある食育活動ができた」等、取り組みを進める中で大切にしてきたことや考え方を教えていただきました。



▲協働で多世代が集まる交流の場が次々と生まれる墨田区のこれまでの成果や取り組みのコツを教えてくださいました

BREAK TIME!



「ヴィレッジシェフ特製の「福島の食材を使ったランチ」で参加者同士の交流がより活発に！」

ランチタイムはレストラン「ハーフタイム」にて、福島県にちなんだ特別メニューをいただきました。メニューは鮭の塩焼き、メヒカリの唐揚げ、浪江焼そば、いか人参、さんまのポーポー焼き、かじきメンチ、マミーすいとん、サラダバー、そしてデザートには柿と梨。グループごとに会話も弾み、初対面だった参加者同士の緊張もすっかりほぐれました。



▲特別メニューのランチは大好評！おいしい食事は人と人を近づけます

当日の様子③ 「食育」をキーワードにどんなコラボができるかな？

午後は、約3時間を使ってワークショップ「食育で！夢コラボ」を行いました。「食育から生きる力を養う」ためにできることを、福島県相双地域と墨田区のコラボレーションで実現させよう！というワークショップです。はじめに、それぞれの地域で大切にしていることや自慢できることを出し合い、次にお互いの大切にしていることや自慢を重ね合わせて、企画アイデアを練り、最後にグループごとに発表しました。

普段は見落としがちで自分の地域の魅力を再認識したり、自分の地域にはない他の地域の魅力を知ることによって、より自由な発想でアイデアを出し合うことができ、出てきたアイデアは個性的なものばかり。発表後は、参加者全員が自分のグループ以外で良いと思うアイデアのグループに投票し、票数の多い順に賞が決まりました。



▲「修学旅行」というキーワードで榊葉町の魅力にフォーカスを当てたアイデア



▲それぞれの地域の文化と一緒に「体験」しよう！というアイデア



▲アイデアを寸劇でプレゼン！あひる役、生産者役の迫真の演技が印象的



▲相双地域と墨田区との相互交流のアイデアをラップでプレゼン！



▲天空の里山の「ふくしまオーガニック・コットン」と墨田区の「化粧まわし」のコラボアイデア

5つの賞を設置し
アイデアを全員でたたえ合いました。



これほど集中して「食育」を話し合う機会はありませんでした。食と真剣に向き合った時間は貴重な体験になりました。各チームのアイデアに対して驚いたり喜んだり、魅力的な企画に可能性を見出したり！新しいつながりをお土産に、地域や子どもたちのため次はどんなワクワクする「食育」を仕掛けられるか楽しみです。



当日のアンケート 嬉しい声をたくさんいただきました！

皆が笑顔で楽しいワークショップでした。夢があったら頑張れる！夢があったら前へ進めると実感しました。子どもたちが元気になれるよう大人も希望をもてるようなワークショップを今後も期待しています！

食育についてたくさんの方と語り合えて本当に楽しかったです。夢が広がりました！相双地域の方にさらに参加していただき、地域のつながりが活性化するとよいと感じました！

すごく、楽しかったです！こんなに幅広い方々と食のお話したのは初めてです。今日のアイデアをより具体化していきたいと思います！大変お世話になりました。素晴らしい会でした。

思った以上に楽しく話し合いができて嬉しかったです。初めての出会いでないような気持ちのよいワークショップでした。引き続き、この関係をつなげたいです。

午後から皆がリラックスして本当に楽しそうに意見を出し合っている、笑いあっている姿が印象的でした。それぞれの地域によさや特徴をいかした取組みがたくさんできることを楽しみにしています。

双葉の皆さまの元気をいただきました！今後のつながりを楽しみにさせていただきます、一緒に作ることができることを希望します。



写真撮影：五木田 勉

本ワークショップ開催にあたりご協力いただきました墨田区、すみだ食育goodネットの皆さま、誠にありがとうございました！

相双地域の再生には「手段としての食育」がキーワードになる！ 今後の展開にご期待ください！

食のイベントにはおいしい食事がマスト！今回は福島食材を使ったランチをJ-VILLAGEの植松総料理長にお願いしました。おいしい食事は参加者の親近感を増します。午後のワークショップはグッと盛り上がりました！

当日は学校・自治体・管理栄養士・生産者・保護者と関係者が一堂に会しました。相双地域の食育のイベントでは初めてだと思います。さまざまな分野の人がディスカッションしたことで多様な価値観を共有できました。

また墨田区の皆さんからお話を伺い、食育には多面的な可能性があり地域再生のキーになり得ることも実感しました。墨田と相双地域、参加者同士それぞれで交流が生まれ、新しい企画が具体的に始まります。(ex. 墨田・相双地域の相互訪問企画、「やっちゃば」での福島農産品販売、墨田区・多古町・相双地域とのコラボレーション企画、株式会社明治・ヤマザキ製パン株式会社のワークショップなど)

「継続は力なり」これからも福島大学相双地域支援サテライトがハブとなり、食育に携わる方たちの緩やかなネットワークを構築し活動をサポートしてまいります。

相双地域にまいた「食育のタネ」に乞うご期待！

相双地域支援サテライト 谷 信孝



小さく始めて、
大きく育てよう

編集後記

「食育のタネ」いかがでしたでしょうか。今回のワークショップには、下は20代の大学生から、上は80代の方まで、様々な年代の方にご参加いただきました。同じ課題を共有し同じ方向を向いて、ただ悲観するのではなくポジティブに、そして他人事ではなく自分事として、どうしたら解決できるか・その先にどんな未来をつくりたいか、皆でアイデアを出し合うことができた、とても温かい場でした。

いま日本には、食の安全や信頼に関わる問題、孤食の問題など、「食」を取り巻く課題が山積しています。難しい課題だからこそ、他人任せにするのではなく、今回のようにどんな年代・立場の方も自分から参加し意見を出し合うことで新しい取組みが生まれ、解決につなげていけるのだと強く感じました。

今後、回を追うごとに取組みを具体化しお伝えしていければと思います。お楽しみに★(相双地域支援サテライト 山田 香苗)

発行：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター相双地域支援サテライト

[企画・連携担当] 福島市金谷川1 (福島大学うつくしまふくしま未来支援センター内) TEL: 024-504-2834

[植葉本所] 双葉郡植葉町下小高麦入31 (植葉まなび館内) TEL: 0240-23-6675

[川内分室] 双葉郡川内村上川内早渡11-24 (川内村役場内) TEL: 0240-25-8995

[南相馬分室] 南相馬市原町区旭町1-8 (みなみそうま復興大学内) TEL: 0244-24-2563

発行日：2018年12月1日

<http://ifs.fure.fukushima-u.ac.jp/>

ホームページはこちらから▶

